



あゆみ

No. 143
 平成30年 8月31日
 編集 発行： 芥山寮・第二芥山寮
 天草市本町下河内 680
 TEL 0969-22-5339・0969-22-1766
 FAX 0969-22-5090



今年も天草ハイヤ道中総踊りに参加してきました。暑い中、みなさん頑張って踊りきりました。

8月4日

『個別支援計画についての一考察』

施設長 鮑田 一夫

立秋も過ぎたというのに盛夏のころと変わらない酷暑が続いています。芥山寮、第二芥山寮では、利用者の皆さんをこの暑さから守ることを第一の課題として、この夏を乗り切ってきました。加えてここ天草はこの一ヶ月ほとんど雨らしい雨が降っておらず、水不足の心配も出てきています。豪雨災害に見舞われた皆様には申し訳ありませんが、人も草木も雨を切望しているところです。

九月は、個別支援計画の半期の見直しの時期です。四月からの計画が遂行されてきたかどうか、サービスマン管理責任者、担当職員は、目下、自分で自分に通知表をつけるような気持ちで見直しをしているところです。計画倒れになってしまったこと、当初の方向性からずれてきてしまったことなど、反省すべきこともたくさん見つかったことなどは、必ずです。

個別支援計画を絵に描いた餅で終わらせず、実効性を持たせるにはどうすれば良いのか、それぞれの施設で工夫をされていることと思いますが、私は次に挙げるいくつかの点が必要ではないかと考えています。一つ目は、うちでは班が日中活動の単位になるため、利用者一人に立てる「個別」の支援計画であっても、班活動との連動性を

持たせた方が良いということです。二つ目は、計画の評価をする時に、数量的に表せるものは表して成果を確認した方が良いということです。例えば「毎日歩行をする」という計画を立てたのであれば、実際に何日それができたのか数えてみるということです。芥山寮では利用者一人一人の歩行記録表をつけており、それが評価の時に役だっています。三番目は、計画の内容をサビ管、担当職員だけでなく全ての支援員に周知しておくということです。実効性を挙げるためには、絶対にチームで同じような方向を向いた支援を行わなければなりません。

さらに、計画を立てる時に最も必要なことがあります。それは、利用者のニーズ、要望を正しく掴んでいるかということです。それを正しく掴むためには、利用者お一人一人を深く理解する必要があります。支援の場では、いかにその人と関わりを持ち、小さなしぐさや変化や言葉をキャッチし、そこから洞察していくか。そこにエネルギーを投じる姿勢が必要で、人は理解するより誤解する方が多いと言われます。ある方とお話したとき、「人は、たった一度だけたまたま見かけたこと、たまたま聞いたことを基準として、相手を判断してしまいがちです。」と言われた言葉が印象に残っています。私達の仕事を成功させるには、その対極の姿勢が必要なのです。日々の忙しい業務の中でも、職員一人一人がその姿勢を持ち続けてくれることを期待していますし、信じています。

サービスの現場より



『事務所より』
管理課長 大塚 伸二

九州地区知的障害関係施設職員研修大会に参加して、行政説明の障害保健福祉施策の動向と分科会では人材確保と定着について学ぶことが出来ました。

三十年度の報酬改定では、減収も予想されましたが、障害児・者が地域や住み慣れた場所ですらするために必要な障害福祉サービスや障害児支援等の提供に必要な経費を確保するため、0.47%増の改定率となりました。主な改正内容としましては、障害者の重度高齢化を踏まえた地域移行・地域生活の支援として、重度の障害者への支援を可能とする日中サービス支援型共同生活援助の創設、一人暮らしの障害者の理解力、生活力等を補うための支援を行う新サービス「自立生活援助」の報酬を設定、地域生活支援拠点等の強化、共生型サービスの基準・報酬の設定等がありました。

人材確保と定着では、学生三名の話を聞くことが出来ました。学生が考える働きたい施設とは、給料が良い、福利厚生が充実している、人間関係が良く伸び伸びと働ける施設でした。教育機関の人材確保に向けた考えとして、資格が欲しいと考える学生がいる一方で社会福祉士としての資格を活かしたいと考える学生もいるので、他職種との違いが見える業務を示す等の提案がありました。就職難から採用難になっている現在、人材確保が困難な状況ですので、ハローワークに頼るのではなく、合同説明会等を通して当施設の良いところをアピールしていけたらと思います。



『熱中症について』

看護師 山口 リエ

熱中症はどのようにして起こるのか？

熱中症を引き起こす条件は、「環境」と「からだ」「行動」によるものが考えられるといわれています。「環境」の要因は、気温が高い、湿度が高い、風が弱い等があります。「からだ」の要因は、激しい労働や運動によって体内に著しい熱が生じたり、暑い環境に体が十分に対応できないその結果、熱中症を引き起こす可能性があります。身体は、平常時体温が上がっても汗や皮膚温度が上昇することで体温が外へ逃げる仕組みとなっており、体温調節が自然と行われています。

熱中症を引き起こす三つの要因

【その一・環境】①気温が高い②湿度が高い③風が弱い④日差しが強い⑤閉め切った屋内⑥エアコンの無い部屋⑦急に暑くなった日⑧熱波の襲来

【その二・からだ】①高齢者や乳幼児、肥満の方②糖尿病や精神疾患といった持病③低栄養状態

④下痢や風邪等での脱水状態⑤二日酔いや寝不足といった体調不良

【その三・行動】①激しい筋肉運動や慣れない運動②長時間の屋外作業③水分補給できない状況
これら三つの要因により熱中症を引き起こす可能性があります。体温の上昇と調整機能のバランスが崩れると、どんどん身体に熱が溜まってしまいます。このような状態が熱中症といえます。

どんな症状

自覚症状としては、ズキンズキンとする頭痛やめまい、吐き気、立ちくらみ、倦怠感等が挙げられます。又、暑い場所にいるにもかかわらず全く汗をかかなくなったり、皮膚が乾燥したり、触るととても熱をもっていたりしたら危険信号です。もうろうとして、呼びかけに反応がなかったり、応答が異常であるといった意識の障害がでることもあります。

ひとことメモ

当日の最高気温を知るだけでなく、その日の気温と湿度の変化を知る、室内の気温や湿度の状況を知り、熱中症予防に効果があります。「いま自分のいる環境がどのような状態なのか」を知ることが、熱中症予防の大切なポイントです。又、熱中症の発生には、体調が大きく影響します。自分のいる環境を知ることとあわせて自分の体を知り、体調に敏感になりましょう。

熱中症予防に役立つ「暑さ指数WBGT」があります。熱中症がおりやすいかどうかを教えてください。WBGTは「暑さ指数WBGT」が二八度を超えると熱中症の発生率が急増します。屋外に出る際は帽子を着用したり、こまめな水分・塩分補給を行いましょう。身体に熱がこもらないように、通気性の良い服を着用することもよいでしょう。まだまだ残暑がみられる時期です。暑さから身を守るアクションを行い、熱中症対策頑張って下さい。体調にも気をつけながら、職員の皆様、利用者さんの日々の生活を過ごされますようお願いいたします。



稜南中学校生徒さんより

『ワークキャンプを終えて』

私は今回参加させてもらったワークキャンプで、福祉の仕事の素晴らしさとコミュニケーションの大切さを学びました。今までは福祉のことについてよく知らなかったけど、たくさんの人を笑顔にし、幸せな気持ちに出来る仕事だということが分かりました。

利用者の方達はとても明るく楽しそうで、職員の方が毎日利用者さんの事を一番に考えて接していらつしやるからなんだろうなと感じました。また、茶山寮の方々ほどの人も温かく、優しく話しかけてくださったので嬉しかったです。自分から積極的にコミュニケーションを図っていくのは大切なことだと改めて思いました。

二日間という短い時間でしたが、自分の将来について考えるきっかけになったし、普段させてもらえない貴重な体験をさせてもらえました。

茶山寮で学んだことを忘れず、これから活かします。二日間ありがとうございました。



『九州地区知的障害関係 施設職員研修大会に参加して』

調理員 岩崎 久美

人生を豊かに「生きる」を大会テーマに七月二六日～二七日の二日間、熊本で開催されました。行政説明、分科会、記念講演Ⅰ、Ⅱがあり、分科会では六つのテーマに分かれそれぞれに事例発表やグループ討議が行われました。

分科会では、摂食と嚥下についての話を中心に実技を通して支援の実際を体験しました。隣の人と固形物・半固形物・水分などをお互いに食べさせ合ったのですが、まずは、一口ごとに、口に含んでから飲み込むまでを意識しながら行い、次に口の開け方や飲み込み方、姿勢などを支持された通り変えてみると、こぼしたり、むせたりして、こんなにも食べる事が大変な事なのかとよく分かりました。摂食・嚥下機能は個人差があり実際の食事はより複雑です。

一人一人が違うことを知り、本人の能力を生かした豊かな食事を提供するために、まずは食事形態や姿勢・嗜好・食器具、精神状態など、その人に合った支援を行う必要があります。そのためには、生活支援員、栄養士、看護師がチームとしてそれぞれの立場で理解し合い共有し取り組む必要があります。「あなたはチームの一員として何ができますか？」と言われ、今の自分に何ができるのかを考える良い機会となり、また、食べる事の大切さを改めて感じる事ができました。今回学んだことを、これからの仕事に生かしていければと思います。



『福祉の総合就職フェア』

支援員 濱 睦史

八月十七日、熊本市KKRホテル熊本にて開催された「福祉の就職総合フェア」に参加してきました。

この就職セミナーは大学生・専門学生の参加が中心であり、茶山寮・第二茶山寮にも【若い力を！】と思い、面談を行ってきました。実際に三人の方と面談を行い、内定まで結び付く事はありませんでしたが、施設のアピールをすることが出来ました。現在、茶山寮・第二茶山寮・グループホームで働く職員の総数は約七十名程ですが、二十代の職員はたったの六人しかいません。後数年経つと五十代の職員が定年退職を迎え、若い人たちが現場の中心となって支援していかなければなりません。介護職はきつい、汚い、危険、給料が安いというイメージが強く、離職率も高いのが現状です。幸い茶山寮・第二茶山寮では長く働く人が多いのですが、介護職を志し国家資格を取得して晴れて就職したのに新卒で離職した人の勤務年数は三年未満の方が大半を占めています。介護労働に携わる人材の不足が大きな社会問題となっている今、働きやすい、働きがいがある職場へと改善していかなければならないことは確かです。

大学や専門学校がない天草では、尚更大学生や専門学生を新卒で雇うという事は難しく、こういった就職フェアへどんどん足を運び施設をアピールすることが必要不可欠になっていきます。

『家族交流会』

六月十九日

ご家族の方も多数来寮して頂き、利用者の方々の発表、職員の合唱を披露しました。会場には班で作成した壁面や習字等の展示も行い、日頃の練習の成果や活動内容を見て頂きました。又、ボランティアの展示も行い、日頃の練習の成果や招きし、利用者の方が知っている曲を演奏して頂き皆さんとても楽しそうに歌ったり手拍子しておられました。昼食は待ちに待ったバイキング。ご家族の方と楽しく、美味しく頂きました。



茶山寮フラダンスサークル
交流会にて、日頃の練習の成果を発表
です。どなたも堂々とした踊りでした。



ボランティア
♪紙風船の皆さん♪
すてきな音色いつもありがとうございます



♪第二茶山寮ハンドベル♪
指揮は若田支援員。ハンドベルの心地よい
音が会場を包み込みます。



昼食はバイキングで、御家族のみなさん
と一緒に好きな物を選んで楽しく美味しく
頂きました。

『ワークキャンプ』 八月六日・七日

今年も稜南中学校より八名の生徒がワークキャンプに参加されました。コミュニケーションの場面では始め緊張していた様子ですが、手を繋いで触れあう事ですぐに緊張が解れ笑顔多く過ごす事が出来ていた様です。

実習地での作業や、陶芸活動等、当施設の利用者の方々がどのような生活をされているのかを見て学んでいただき、福祉についての理解を少しでも深めてもらう機会になっていました。



生徒の皆さんには、普通の学校生活では
体験できない様々な活動に参加していただき
ました。利用者さんも生徒とのふれあい
を通して、若いパワーをいただきました。
又、来てね(^_^)~



天草花火大会

七月二八日

「天草ほんどハイヤ祭り」の一環として行われる大会で、一万二千発の花火が天草の夜空と海面に咲き乱れます。苓山寮からも見学に行ってみました。
たまや



天草ハイヤ道中総踊り

八月四日

祭りのフィナーレは、参加者約二千七百人の踊り手と観客が一つとなる道中総踊り。

会場は熱気ムンムン、苓山寮・第二苓山寮そしてグループホームはばたきからも天草市社会福祉協議会「心ふれ愛隊」の一員として参加し頑張っ

って踊られました。天草信用金庫さんから市役所までの片道でしたが、みなさん汗をかきながら一生懸命踊られる姿を見て、沿道からもたくさんの方の応援をいただきました。

ありがとうございました。



啓明会夏祭り

八月二五日

毎年恒例、啓明会夏祭り、利用者の皆さん、「夏祭りはいつあつと!？」と準備を進めている時から楽しみにして下さっています。当日は暑かった為、熱中症等に気を付けながら、祭りを楽しんでいただけのように支援しました。又、地域の方の来場も多く、大盛況のうち

に終わることが出来ました。

最後に夏祭りにご協力して頂いたたくさんの方に感謝申し上げます。



ステージはアトラクションで大いに盛り上がりました。



【新職員紹介】



吉永 聖さん
(荅山寮 支援員)



村田 陽次さん
(第二荅山寮 支援員)



濱洲さおりさん
(グループホーム 看護師)

三名の職員が新しく仲間となりました。早く、利用者さんと仲良くなり頑張っていきたいです。よろしくお願いします。

【退職職員】

富永 喜博さん

お世話になりました。新たな出発が実り多きものとなりますよう心から応援しております。

【おくやみ】

桑原 毅さん

天草学園より入所され、三六年間荅山寮で生活されました。心よりご冥福をお祈りいたします。



職場親善 (八月二六日)

ソフトボール大会

啓明会チームで参加しました。

結果は二回戦で負けました。来年も頑張ります。



シリーズ1

日常生活の風景



榊田 圭佑さん

今年、三月二八日より荅山寮を利用させていただいています。あすなろ班で毎日の歩行やタオルたたみ頑張られています。一日の楽しみは大好きなココロです。皆さん宜しくお願いします。

佐藤 友耶さん



荅山寮に入所され五ヶ月が経過しました。生活にも慣れ、荅山寮の皆さんと手を繋ぐなど、積極的にコミュニケーションを図られています。たくみ班に所属され歩行訓練を中心に取り組んでいます。歩行中はリズム良く声を出しながらスキップされ、周囲の人たちを笑顔にしてください。

工藤 智奈美さん



三月から第二荅山寮を利用させていただいています。所属は、なごみ班です。活動での楽しみは、皆と一緒に車椅子で歩行に参加にすることです。「散歩に行こうかね」と、とても可愛い声で話されます。時々見せる笑顔がとても可愛く、その笑顔に職員も癒されています。

行事予定

九月

- 九日 熊本県親善スポーツ大会 (ペタンク競技参加)
- 十一日 本町消防団合同防災訓練
- 十四日 敬老会
- 二六日 オープンカフェ
- 二九日 第二荅山寮 グループホーム合同旅行 (二泊三日)



十月

- 十日 荅山寮 市内一泊旅行

編集後記

少しずつ日が短くなり何となく朝晩涼しくなってきました。今年の夏はメディア等でも猛暑や酷暑といった言葉を多く耳にしました。周囲でも熱中症や脱水症等になられた方も多かったように思います。本当に最近の気候変動はどうしたことでしょうか。体温超えは当たり前になってきており、作物ばかりでなく、人にも大きな影響を与えます。身体ばかりか、心のバランスも崩れやすくなりますので、まずは早寝早起き、しっかりと食事をする事を意識してこの残暑を乗り切りましょう。

